

2022年版愛知県女子適用規則（訂正版）

（公財）日本体操協会制定 採点規則 2022年版および2022年版変更規則Ⅱを以下のように部分変更して適用する。

採点の基本内容（段違い平行棒、平均台、ゆか）

○前向きでない構成 -0.10/0.30/0.50/0.80/1.00

1. 跳馬

- 2回の跳躍を実施し、良い方のスコアを有効点とする。
- 切り返し系の跳躍技 跳躍番号 0. 0 0 Dスコア 0.50 Eスコア 6.00 から採点
- レーンに関する採点は適用しない。
- 種目特有な実施減点
支持局面 ・前転とびで頭もしくは背中がつく -3.00 まで
・支持が長い -0.10/0.30/0.50 ※グループ1の跳躍技のみに適用
第2空中局面 ・ダイナミックさに欠ける -0.10/0.30/0.50 ※グループ1の跳躍技のみに適用

2. 段違い平行棒

・低棒と高棒で同一技を実施した場合1回ずつ難度を承認する

構成要求（CR）

1. 低棒と高棒で少なくとも1つ以上の技を実施（開始技と終末技を除く）
2. 空中局面を伴う技（終末技を除く）
3. B難度以上の棒に近い回転系の技（空中局面を伴わない）
4. け上がり

3. 平均台

構成要求（CR）

1. 180度の開脚（前後/左右）または左右開脚屈身のリープ、ジャンプを1つは含む、少なくとも2つの異なるダンス系の技からなる組み合わせ
2. ターン（グループ3）または接転系の技/旋回
3. 空中局面を伴うアクロバット系の技
4. 方向の異なる（前方/側方と後方）アクロバット系の技

4. ゆか

構成要求（CR）

1. 180度の開脚（前後/左右）または左右開脚屈身の跳躍技を1つは含む2つの異なるリープまたはホップ（難度表にある）の直接または間接（ランニングステップ、小さなリープ、ホップ、シャッセ、シェネターンが入った）の組み合わせでの移動
2. 空中局面を伴うアクロバット系の組み合わせ
3. 前方または後方の宙返り（片足踏み切りの宙返りは除く）
4. アクロライン

アクロバット系の技について

- －最後のアクロラインの後に実施されたアクロバット系の技も難度点として数えられる。
- －アクロラインがない場合も、実施されたアクロバット系の技は難度点として数えられる。

アクロラインと終末技

例：アクロラインが1本またはアクロラインがない場合

- －終末技の難度点なし、最大7つの難度点を加算
- －終末技なし ー0.50の減点は適用しない

5. 終末技ボーナス

段違い平行棒、平均台、ゆかにおいて、A 難度またはそれ以上の終末技に対して以下のボーナスが与えられる。

- ・ A、B の終末技 +0.30
- ・ C の終末技 +0.50
- ・ D 以上の終末技 +0.70

*D スコアに加算される。

*大過失のある実施にもボーナスが与えられる。

*ゆかは以下の条件が含まれていること。

- ・ 2本の異なるアクロライン。

6. 短い演技

演技の実施と芸術性の減点がなされるEスコアの最高点は以下の通り：

- ・ 10.00 もし6技以上の実施であれば
- ・ 6.00 もし5技の実施であれば
- ・ 5.00 もし4技の実施であれば
- ・ 4.00 もし3技の実施であれば
- ・ 3.00 もし2技の実施であれば
- ・ 2.00 もし1技の実施であれば
- ・ 0.00 もし技の実施がなければ

7. A (0.10) の難度を認められる要素

以下の要素はA 難度として数えられるが、構成要求、組み合わせ点、シリーズボーナス、終末技ボーナスには使用できない。また、平均台において横向きでのジャンプを実施しても1つ高い難度は与えられない。

－段違い平行棒 (*印の技は構成要求に使用できる)

- ・ さか上がり (開始技) ・ 大振りさか上がり ・ そんきょ *後方足裏支持回転 (かかえ込み)
- *前方足裏支持回転 (かかえ込み) ・ 棒下振り出し下り

－平均台

- ・ 伸身とび ・ かかえ込みとび ・ 前転 ・ 後転 ・ 前転とび下り
- ・ ロンダート下り ・ 片足踏み切り側方開脚伸身宙返り下り

－ゆか

- ・ 伸身とび ・ かかえ込みとび ・ 倒立前転 ・ 後転倒立 ・ 前方倒立回転
- ・ 側方倒立回転 ・ 後方倒立回転